

第78回麻布獣医学会 一般講演4

アルミニウム腹腔投与マウス肺臓の ヘマトキシリン・レーキ染色

宮川 誠¹, 安藤 博文¹, 坂本 吉正¹,
石黒 敏一³, 山下 直美², 大田 健²

¹帝京大学医学部中央動物室, ²帝京大学医学部内科学教室,
³帝京科学大学アニマルサイエンス学科

我々は、パラフィン包埋切片で通常の明視野を用いた簡便なアルミニウム (AI) 染色法として、ヘマトキシリン・レーキ法を考案した (病理と臨床, Vol21, No.6, P667-670, 2003)。

今回、ヘマトキシリン・レーキ染色法を用いてAIと肺組織との関連性を検討した。喫煙者の肺間質の肺胞マクロファージ内に無機質の顆粒の沈着があり、元素分析により珪酸アルミニウムであるといった報告がなされている。従ってAIは慢性閉塞性肺疾患 (COPD) の原因の一つではないかと疑われている。さらに、喘息モデル動物の作製において、AIはアジュバントとして用いられている。今回、腹腔内に水酸化アルミニウムゲルを4回投与し、ヘマトキシリ

ン・レーキ染色により肺を染色した。強陽性の肺胞マクロファージが散在しているのが確認できた。このことは、腹腔内に投与したAIが吸収され、肺胞マクロファージに取り込まれ、肺での免疫活性が高まっていると考えられた。以上のようにヘマトキシリン・レーキ法によりマウス (C57BL/6;crj) での肺胞マクロファージのAIを染色することができた。本法はマウス肺臓におけるAIの局在を簡易的に観察する染色法として有用である。

謝辞：本研究を行うにあたり、ご指導、ご助言、ご校閲を賜りました帝京大学医学部解剖学教室の大門建夫助教授に深く感謝致します。